

紙 風 船



“夢”をもって 実現に向けて努力すること

< 苦しきやつらさも“恵みの雨” >

県内も13日頃に“梅雨入り”したとのニュースが入りました。ほぼ平年並みの梅雨入りでしたが、昨年よりは2週間も早く梅雨入りしたことになります。梅雨入りしてもなかなか雨が降らずに“カラ梅雨”と呼ばれる年も多いのですが、今年は比較的雨の日が多く、全国的に【水不足】が懸念されていた状況でしたので、ホッと一安心。まさに“恵みの雨”といったところでしょうか。

雨が続きと気分が落ち込み、晴れ間が恋しくなる人も多いと思いますが、晴ればっかり続いて生き物はよく育ちません。適度な雨が必要なことは言うまでもありません。

このことを「人の成長」として置き換えて考えてみると、いつも楽しいことや良いこと(=晴れ)ばかり続いても、バランスの取れた成長は難しいもので、時には挫折や困難(=雨)にぶつかって、それを乗り越えた時に大きな成長が見込めるのだと思います。苦しい時にガマンしたり、泣きそうになるくらいつらい時でもじっと踏ん張ってこらえたりすることが、バランスの取れた成長につながると思われます。

挫折や困難も、考えようによっては“恵みの雨”。こんなことを改めて考えさせられたのが、23日(木)に白岩小学校で行われた「ゆめ教室」。本校の5年生13人が参加しました。

「ゆめ先生」はスピードスケート日本記録保持者の石野枝里子さん。トリノオリンピックに出場し、ワールドカップでは表彰台(3位)にも上がった経験がある石野先生のお話を簡単に紹介します。

石野先生は、冬の寒さ厳しい北海道帯広市に生まれ。3歳の頃からスケートを始め、5年生の頃には寒さと厳しい練習が嫌でスケートが嫌いになる。ただ走ることは大好きだったので、6年生になって仲間と「リレーで全国優勝」という目標を立てて練習に取り組んだ。そして全国準優勝という結果を残すが、準優勝という喜びよりも優勝できなかったという【悔しい】気持ちが大きかった。ただ、このことから「目標を持って努力を続けることが大事なんだ」と強く思った。

中学生の頃は、遊ぶことに夢中になり一時期スケートも陸上も何もしなかった。冬になり、新しい友だちとスケートを一緒にやって楽しいと感じて、またスケートを本格的にやり始めた。が、友人や指導者、友人の保護者にまでスケートが下手だねと言われ(石野先生自身はそう言われても何も感じなかったそうです)、それを伝え聞いたお母さんが悲しむ様子を見て、また【悔しい】と思い、周囲の人たちを見返してやろうと、この悔しさをバネにして努力を重ねた。結果初めて全国レベルの大会で優勝して自信をもつ。

高校ではインターハイで2種目(1500Mと3000M)3連覇を成し遂げ、初めて「オリンピックに出場する」という夢をもち、日々の練習に取り組む。

社会人時代は練習も想像以上にきつく、人間関係で悩んだりケガで苦しんだりした。それでも石野先生は自分で立てたオリンピックに出場するという『夢』を思い出しつらさを乗り越え、4種目でオリンピック出場を果たす。しかし結果は最高で4位。自分の力不足を痛感し【悔しい】気持ちだけが残った。

その後、十分な休養を取るべき時期に取らずに無理に練習を続け、ケガをし、全力で練習できなくなる。その結果、それまで負けたことのない相手にも負けるようになると、次第に練習に身が入らなくなり、やがては本気(全力)で練習すること努力することを「格好悪いこと」と思うようになった。結果を残せないため日本代表から漏れ、それを機にスケートを辞める。

ただ、スケートを嫌いになっていなかったため、しばらくして現役復帰。その時の心境は「やらないで後悔するよりだったら、やって後悔した方がいい」。そして全力で努力することは「格好悪い」ことではないと思えるようになり、全力で努力を続ける。その結果、ワールドカップの舞台上で日本記録を樹立し初めて表彰台に上る。そこで次の夢「オリンピックでメダル獲得」をもつが、残念ながらその夢は叶わず、スケート競技から引退。

石野先生はスケートという競技を通して、『夢』に向かって本気で挑戦(努力)することの大切さ、苦手なことや嫌なことあきらめずに立ち向かうこと大切さなどを学んだそうです。本校の教育目標にも通じることだな～と感じました。子どもたちもきっと、『夢』をもつこと大切さや『夢』に向かってあきらめずに努力し続けること大切さを感じ取ることができたのではないのでしょうか。

石野先生のお話を聞くことができ、本当によかった1日でした。

